

手帳カバー再資源化に注力

石塚、主力事業も好調

ヒニールカーテンの加工や販売などを手掛ける石塚（本社＝東京都千代田区、熊谷弘司社長）は、ポリ塩化ビニル（PVC）製の手帳カバーのリサイクルに取り組んでいる。2021年からリサイクル事業を開始し、その一環として取引先の手帳メーカーの直営店で使用済みの手帳カバーを回収。新たな手帳カバーの資源として再利用している。



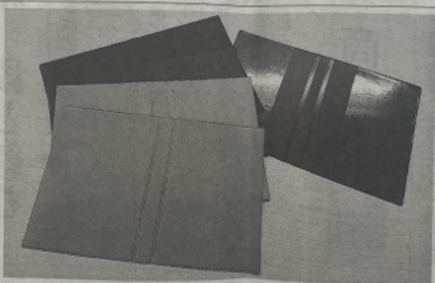
熊谷社長

SDGsやプラスチックの資源循環など環境意識の高まりを受け、使用済み手帳カバーの再資源化に着手した。熊谷社長は「使ったものをもう一度使おう、マテリアルリサイクルが一番環境に良いと考えた」と言葉を返す。

回収対象となる手帳

カバーは年度が印刷され、翌年には使用できないもの。これを手帳メーカーの直営店に設置した専用ボックスで回収し、石塚が製造する手帳カバーの原料の一部として用いる。なお、手帳カバーには重量ベースで約4割、再生プラスチックが使われる。

今後は、リサイクル事業ではコロナ禍で導入が進んだ飛沫防止パーテーションのリサイクルを検討する。熊谷社長は「感染防止策の見直しで、パーテーシ



製造する手帳カバー

ョンは大規模業が見込まれるため、リサイクル体制が構築できれば社会的にも意義がある。再製品化に「喜ぶたい」と話す。

また、足元にかけて主力のヒニールカーテン事業が好調だ。電気カーテンを設置した場

合、未設置時と比べて室内温度にして最大9度の改善効果が見込めるという。

取り扱うヒニールカーテンは3種類。カーテンタイプは生地の種類が豊富で、顧客のニーズに適した加工を施すことができる。折り畳み式で収納性が高い。フコティオンタイプは、作業エリアの区画整理などに使用される。のれんタイプ

は厚さが2〜3センチ（カーテンタイプは0.5センチ）と分厚いため高耐久。人の行き来や荷物の運搬が多い出入り口に適している。

現場調査から仕様決定、カーテン加工、取付工事まで一気通貫で行えることが同社の強みだ。自社で建設業許可を所得しており、大型物件にも対応できる体制が整っている。